

一体的・連続的な
バリアフリー化のあり方と
その波及効果に関する調査研究
報 告 書

平成26年3月

国土交通省

総合政策局安心生活政策課

目 次

1. 調査の概要	1
1.1 調査の概要について	1
(1) 調査研究の目的	1
(2) 調査研究の内容	1
1.2 委員会	2
2. バリアフリー基本構想の取組状況	3
2.1 基本構想作成予定等調査結果からみた取組状況	3
2.1.1 基本構想作成の状況	3
(1) 基本構想を作成した市町村数	3
(2) 基本構想の作成予定	3
(3) 基本構想を作成する予定がない理由	3
(4) 基本構想作成のきっかけ	4
(5) 基本構想の提案制度	5
2.1.2 協議会	5
(1) 協議会設置の有無	5
(2) 協議会の構成メンバー	5
(3) 住民意見の反映方法	6
(4) 事後評価の実施状況	6
(5) 事後評価の活用方法	7
2.1.3 基本構想に位置付けられている特定事業	7
2.2 バリアフリー基本構想の住民参加と住民意識	8
2.2.1 基本構想の実施段階に応じた住民参加	8
(1) 基本構想策定時の住民参加	8
(2) 計画段階への住民参加	8
(3) 施工段階での住民参加	9
(4) 事業完了後の評価・検証	9
(5) 基本構想策定後の協議会の継続	10
2.2.2 参加住民における意識調査	11
(1) アンケート調査方法	11
(2) 住民参加の手法の有効性について	11
3. バリアフリー化の波及効果に係る検証	13
3.1 モデル都市におけるバリアフリー基本構想等の取組	13
3.1.1 モデル都市の選定	13
3.1.2 モデル都市の都市特性等の比較	15
(1) 山形市の都市特性	15

(2)	高槻市の都市特性.....	16
3.1.3	モデル都市のバリアフリー基本構想の概要.....	19
(1)	山形市.....	19
(2)	高槻市.....	24
3.1.4	モデル都市におけるバリアフリー整備に対する利用者アンケート.....	29
(1)	アンケート実施概要.....	29
(2)	利用施設の選択時に重視する要素.....	30
(3)	バリアフリー化と外出しやすさの関係.....	31
(4)	子ども連れに配慮した設備があることによる外出時間、外出頻度への影響.....	33
(5)	理解やサポートの充実度.....	34
(6)	モデル都市におけるバリアフリー整備に対する利用者アンケート結果のまとめ.....	35
3.1.5	モデル都市におけるバリアフリー整備に対する車いす使用者、視覚障害者ヒアリング	36
(1)	車いす使用者、視覚障害者ヒアリング実施概要.....	36
(2)	車いす使用者ヒアリング結果.....	37
(3)	視覚障害者ヒアリング結果.....	38
3.2	バリアフリー化の波及効果に関する検討.....	39
3.2.1	バリアフリー化の波及効果の考え方.....	39
(1)	バリアフリー化の波及効果の位置づけ.....	39
(2)	バリアフリー化の波及効果の観点.....	39
(3)	参考とする波及効果の考え方.....	39
(4)	バリアフリー整備の段階に応じた指標の位置づけ.....	41
(5)	バリアフリー化の効果を測る指標の考え方.....	42
(6)	バリアフリー整備を進めることで発現が期待される地区の経済波及効果等の指標.....	45
(7)	バリアフリー整備の従前と従後の当事者（個人）の行動変容・意識変化による指標..	46
3.3	波及効果把握の試行.....	47
3.3.1	地区としての変化を表す指標の検証（試行）.....	47
(1)	来訪者の増加に関する検証（※指標例 I-（1））.....	47
(2)	施設利用者数等に関する検証（※指標例 I-（3）-②）.....	49
3.3.2	当事者（個人）の行動変容・意識変化を表す指標の検証（試行）.....	51
(1)	移動負荷の軽減に関する検証（※指標例 II-（2）-①）.....	51
(2)	遠くの設備まで行く負荷の軽減に関する検証（※指標例 II-（2）-②）.....	52
(3)	滞在時間の増加に関する検証（※指標例 II-（2）-③）.....	52
3.3.3	波及効果把握に参考となる調査研究など.....	54
(1)	公共交通等のバリアフリー化に対する効果.....	54
(2)	「トイレシェアリング」による社会的インパクト・経済波及効果を推計.....	57
(3)	富山市市内電車環状線化の効果の例.....	58
(4)	CVM(仮想市場評価法)を用いたバリアフリー設備の評価.....	59

4. 効果的なバリアフリー基本構想の作成促進方策の検討等	60
4.1 波及効果の高い生活関連施設や経路の設定	60
4.1.1 整備効果の高い経路と整備内容	60
(1) 連続性の評価	60
(2) 障害特性によって異なるバリアフリー整備で発現される効果	61
(3) 整備効果の高い経路の設定.....	62
4.1.2 整備効果の高い施設と整備内容	64
(1) 高齢者、障害者等が利用する施設.....	64
(2) 生活関連経路に接続する施設.....	64
(3) 駐車場からのアクセス整備.....	65
(4) バリアフリー整備に合わせて必要なソフト対応.....	65
4.2 情報発信による施設活用効果への期待	66
(1) バリアフリー整備に合わせた情報の提供.....	66
(2) 情報提供の方法.....	66
4.3 計画作成時の効果的な高齢者・障害者等の当事者の意見の収集・反映方法	67
4.3.1 基本構想策定時の意見収集.....	67
(1) 基本構想策定時に組織される協議会	67
(2) アンケート、ヒアリング、現地点検等による意見収集	67
4.3.2 整備効果の高い生活関連施設や生活関連経路の設定における意見の収集	68
(1) 意見の収集方法と設定の考え方	68
(2) 利用者の利用実態に即した経路等の検討.....	68
4.3.3 基本構想策定後の協議会等の継続.....	70
5. 「バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック」の見直し案の検討	72
5.1 実践例のとりまとめ	74
5.1.1 「8-1 心のバリアフリーの推進（例）」の実践例	74
5.1.2 「8-2 バリアフリーに関する情報提供（例）」の実践例	76
5.1.3 「9-2 観光地等における来訪者への配慮」の実践例.....	80
5.1.4 「9-4 交通特性への配慮（新項目）」	82
5.2 バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック活用方策の検討	83
5.2.1 基本構想策定支援セミナーの活用.....	83
5.2.2 まちづくり関連事業での活用	86
5.2.3 バリアフリー基本構想の作成促進方策の検討.....	87
(1) 担当部局と関連部局の連携等	87
(2) バリアフリー整備の途中段階に対する評価の考え方.....	87
(3) 地域特性を反映した計画策定の促進	89
(4) 基本構想の作成支援（情報収集等）	89

6. 参考資料	91
6.1 ヒアリング結果	91
6.1.1 ヒアリング実施概要	91
6.1.2 高槻市視覚障害者ヒアリング結果概要	92
(1) バリアフリー整備が進んだことでできるようになったこと	92
(2) 以前に比べて理解やサポートが充実したと感じた体験	92
(3) 残された問題・課題	92
6.1.3 高槻市車いす利用者ヒアリング結果概要	93
(1) バリアフリー整備が進んだことでできるようになったこと	93
(2) 以前に比べて理解やサポートが充実したと感じた体験	93
(3) 残された問題・課題	93
6.1.4 山形市視覚障害者ヒアリング結果概要	94
(1) バリアフリー整備が進んだことでできるようになったこと	94
(2) 以前に比べて理解やサポートが充実したと感じた体験	94
(3) 残された問題・課題	94
6.1.5 山形市車いす利用者ヒアリング結果概要	95
(1) バリアフリー整備が進んだことでできるようになったこと	95
(2) 以前に比べて理解やサポートが充実したと感じた体験	95
(3) 残された問題・課題	95
6.1.6 バリアフリー旅行社ヒアリング結果概要	96
(1) バリアフリー旅行の概要	96
(2) 旅行企画時の配慮事項	96
(3) バリアフリー旅行の効果	96
(4) バリアフリー旅行の展望	97
(5) 問題と課題	97
6.1.7 コンサルタントヒアリング結果概要	97
(1) 行政内部の調整	97
(2) 基本構想策定まで	97
(3) 移動等円滑化基準適合の義務	97
(4) 民間建築物の協力	98
(5) 課題	98
6.1.8 事業者（A百貨店）ヒアリング結果概要	98
(1) バリアフリー化に至った経緯・背景	98
(2) バリアフリー化の概要	99
(3) バリアフリー化の対応の充実で期待した効果・発現された効果	99

1. 調査の概要

1.1 調査の概要について

(1) 調査研究の目的

新設の公共交通施設等のバリアフリー化については、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下「バリアフリー法」という。）に基づく移動等円滑化基準適合義務により一定の成果をあげている。一方、民間事業者の所有する既存施設等を含めた一体的・連続的なバリアフリー化が実現していないことから、高齢者・障害者等からは、実質的な高齢者・障害者等の社会参加が実現されていないとの指摘もある。

一体的・連続的なバリアフリー化を実現する手段としてバリアフリー基本構想があるものの、作成主体となるべき市町村や基本構想に位置付けられるべき生活関連施設等の民間施設の所有者等の理解不足により、高齢者・障害者等からバリアフリー基本構想作成のニーズがあるにも関わらず、実現していない実態がある。

そのため、本調査研究では、一体的・連続的なバリアフリー化により、高齢者・障害者等の社会参加が促進されることによって生じる各施設等の利用者数の増加や市町村の中心市街地の活性化等の波及効果について整理・検証を行い、市町村や民間事業者等のバリアフリー基本構想作成の理解促進につなげるとともに、高齢者・障害者等の当事者の参画等による効果的なバリアフリー基本構想の作成促進方策を検討し、「バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック※（平成20年10月）」への反映やその活用方策を検討する。

（※国土交通省HPに掲載有り。 <http://www.mlit.go.jp/common/000986660.pdf> ）

(2) 調査研究の内容

1) バリアフリー化の波及効果に係る検証

一体的・連続的なバリアフリー化を実現している事例等を収集し、高齢者・障害者等の社会参加が促進されることによって生じる各施設等の利用者数の増加や市町村の中心市街地の活性化等の波及効果を明らかにするために、必要となる調査項目・調査方法を十分に検討した上で即地的・実態的調査を行い、一体的・連続的なバリアフリー化の整備内容とその波及効果の関係性等について整理・検証する。

2) 効果的なバリアフリー基本構想の作成促進方策の検討等

一体的・連続的なバリアフリー化の整備内容とその波及効果の関係性等に基づき、波及効果の高い生活関連施設や生活関連経路の設定方法等のバリアフリー基本構想の計画手法について検討するとともに、計画作成にあたっての効果的な高齢者・障害者等の当事者の意見の収集・反映方法等を検討する。

3) 「バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック」の見直し案の検討

バリアフリー化の波及効果に係る検証や効果的なバリアフリー基本構想の作成促進方策の検討等に基づき、「バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック」の改定案を作成するとともに、その活用方策を検討する。

1.2 委員会

上記の検討にあたっては、検討の進め方等の確認を行うため、学識者、障害当事者、モデル都市担当者等で構成される以下の委員会を2回（第1回：2月13日、第2回：3月17日）開催した。

一体的・連続的なバリアフリー化のあり方とその波及効果に関する調査研究

委員名簿

（敬称略・順不同）

委員長	高橋 儀平	東洋大学ライフデザイン学部	教授
委員	三星 昭宏	関西福祉科学大学	客員教授
委員	吉田 朗	東北芸術工科大学デザイン工学部	教授
委員	小西 慶一	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	副会長
委員	橋井 正喜	社会福祉法人 日本盲人会連合	理事・組織部長
委員	久松 三二	一般財団法人 全日本ろうあ連盟	常任理事・事務局長
委員	今西 正義	特定非営利活動法人 DPI日本会議	監事
委員	岩田 雅史	山形市企画調整部	次長（兼）企画調整課長
委員	長谷川 哲郎	高槻市都市創造部都市づくり推進課	課長
委員	岩月 理浩	国土交通省総合政策局安心生活政策課	課長
事務局		一般財団法人 国土技術研究センター	